

皇徳寺団地まちづくりニュース

第
7
号

～団地活性化に向けた勉強会を行いました～

令和元年 12月 24日 発

市では、若者から高齢者まで多様な世代が暮らす活力ある団地づくりを目指して、30年度からの約3年間で、具体的な取組みについて検討を進めています。

今回は、11月14日に開催した第7回ワークショップの概要についてご紹介いたします。

第7回ワークショップ

日時：11月14日(木)19時～21時

場所：宮川校区公民館

第7回ワークショップの流れ

団地活性化に向けた他の団地での実際の取組みの勉強会を行い、10年後、20年後にどのような団地を目指すのか、そのためにはどのような取組みが必要か等について意見交換を行いました。



勉強会の様子

① 団地活性化に向けた勉強会

小山先生による他団地での取組みについての講義や、学生による高齢者の外出に関するアンケート結果についての発表が行われました。

② 意見交換

勉強会の内容を踏まえて、皇徳寺団地ではどのような取組みが必要かなど自由に意見交換しました。

③ まとめ



意見交換の様子

次回のお知らせ（※申し込みは不要です）

【第8回ワークショップ 団地活性化に向けた取組みを具体化しよう】

日時：1月28日(火)19時～21時 場所：皇徳寺校区公民館

皆様のご参加、ご意見お待ちしております！

※ワークショップとは…話し合いを通して、自由なコミュニケーションを行いながら、何かを作り上げていく手法の一つです

～団地活性化に向けた勉強会～

これまでに団地活性化に向けてワークショップを開催している3つの団地（皇徳寺・伊敷・西郷）では、どんな話がでたのか、鹿児島大学の小山研究室から発表していただきました。

「3団地でのワークショップを通じて考えるこれからの団地活性化」



3団地（皇徳寺・伊敷・西郷）では、**開発後の経過年数（＝高齢化の段階）**に応じて、生活環境の状況が異なり、5～10年単位で課題も変化することが分かってきました。

伊敷団地（開発から約50年）では、高齢化に伴う問題が顕在化し、**問題意識を持つ住民が自ら活動**しています。そうした活動がワークショップを通じてつながり始めている状況です。

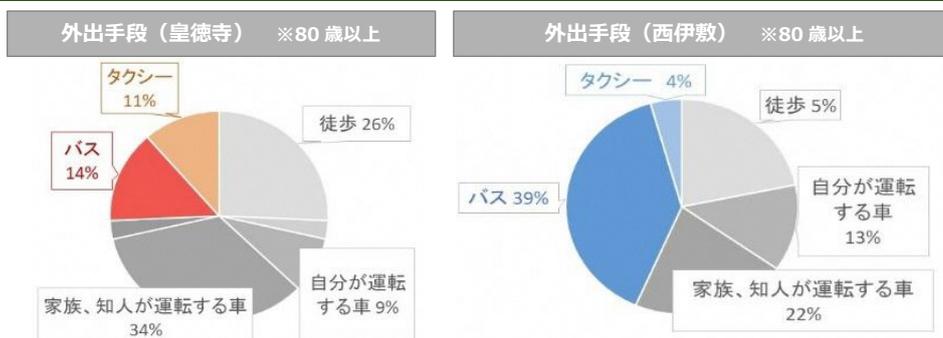


西郷団地（開発から約50年と約30年が混在）では、**事業者の協力や多世代・専門職の参加**のもと、具体的な取り組みが始まっている状況です。

皇徳寺団地（開発から約30年）では、**今後急速に高齢化が進む**と予想されていますが、課題は「高齢化」そのものではなく、団地の空間やサービスが**高齢期の暮らしに対応できていない**ことです。

将来に備えて、「**地域を改めて知ること**」、「**高齢期の暮らしへ対応すること**」、「**事業者と協力すること**」が大切です。

「鹿児島市郊外住宅団地における高齢者の外出行動に関する研究」（卒業論文中間報告）



高齢化が進む団地で快適に住み続けていくには、どのような支援や活動が必要なのか考察するために、団地に住んでいる**高齢者の外出状況**を調査しました。

皇徳寺団地や伊敷団地では、**80歳を境に外出頻度や外出手段が大きく変化**しています。



80歳以上になると、**自分で車を運転するのが難しく**なり、代わりに、伊敷団地では「バス」、皇徳寺団地では「家族、知人が運転する車」の割合が増加することがわかりました。

💡 高齢化について

- ・皇徳寺団地に住んでいる人の感覚からすると、高齢化率はもっと高いのではないか。
- ・宮川校区は皇徳寺校区よりも高齢化率が高い。(宮川校区から団地が造られた)

💡 高齢者の外出と生活について

- ・交通手段を見ると、皇徳寺団地と伊敷団地では **80代になっても1割は自分で運転**している。
- ・運転したら危ないと思われる人が、ほかに交通手段がないから自分で運転しているのを目にしている。
- ・交通に関して、**10年、20年後はどうなるのか**心配している。



💡 使える場を探す

- ・県営住宅は空き室が目立ってきている。集会所の使われ方を調査して、**集う場所を作れないか**。退職後に地域貢献する場にもなる。
- ・空き家の活用は、提供してもよいという申出がないと難しい。
- ・東町内会には集会所が5箇所あり、**小さな単位での集まり**に使えるのではないか。
- ・あまり利用されていない集会所もあるので、絵本を置いて高齢者が子供の見守りを行えないか。
- ・駐車場でのフリーマーケットの取組みなども考えられる。



💡 小さな単位で取組む

- ・町内会の中で、**趣味の調査**をしたいという提案がある。**同じ趣味を持つ住民同士で交流**を図りたい。
- ・高齢者の集まる場所についても、もっと小さな範囲で、**身近なところから始めていくことが大切**だと考えている。

ポイント：小さな単位

- ・団地全体や町内会ではなく、小さな単位であれば取組みやすい。

💡 担い手の現状

- ・取組みをするならば、**中心となって動く人**が必要だ。
- ・フルタイムで働いている人が多いなかで、そこから団地全体を巻き込んでいくのは難しい。
- ・取組みに向けて具体的な話になったときに、自分たちが何かしなくてはならないのか、となると**負担が大きい**。



💡 担い手探し

- ・**まず動く人を集め**、それから活動場所を探して何かをする、という順に取り組む必要がある。
- ・**仕事を退職して時間のある人**もいる。そのような人を巻き込んでいくことが必要。
- ・**個々の住民に近いのは町内会**だと思うので、そこから人材を発掘するという方法もある。

ポイント：小さな活動

- ・やってみたいと言える場をつくり、やりたい人を応援する。



意見交換では、それぞれの立場から自由に意見を伺うことができました。

ご参加いただき、ありがとうございました！

(写真：ワークショップのまとめ)



鹿児島市ホームページ 住宅団地の活性化に向けて



過去のまちづくりニュースや、次回のワークショップ開催予定などもご覧いただけます。



フェイスブック 鹿児島市 住宅団地ワークショップ



ワークショップに参加している大学生等によって運営されています。最新的话题をお届けしています。

- 鹿児島市 都市計画課 (担当：井上、諏訪田、宮)
 - 連絡先：099-216-1378 FAX：099-216-1398
 - メール：toshikeikaku@city.kagoshima.lg.jp
- ランドブレイン株式会社 鹿児島事務所 (業務受託事業者)
 - 連絡先：099-210-9091 (担当：大脇、岩切)